

(株) 勝島経営研究所

---

## 環境活動レポート

Management Design Office  
**KATSUSHIMABiz**  
For sensitive management

平成24年6月 決算版

## 環境方針

---

外部環境へ順応するために内部環境を変革し、  
社会貢献の一端を担う企業として、  
地域社会の環境保全活動に尽力します。

1. 当社の業務及びサービスが与える環境影響を適切に把握するために、環境負荷・取組への評価を行います。
2. 評価に基づき環境目標を設定し、定期的に見直して、全従業員で継続的な改善に取り組みます。
3. 当社の事業に関連する環境の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 重点的に以下の項目について、活動計画を策定し、実行します。
  - ① 電気消費量の削減
  - ② ガス・水道消費量の削減
  - ③ ガソリン消費量の削減
  - ④ 廃棄物の削減・リサイクルの推進
5. 朝礼・定期ミーティングを通して、本方針を全従業員に周知するとともに、環境保全の重要性に対する自覚と意識向上を図ります。
6. 当社の活動内容は、『環境活動レポート』として、一般の方々に閲覧できるように致します。

平成17年7月11日 制定

(株)勝島経営研究所

代表取締役 勝島朝子

# 会社概要

---

## 事業者名

株式会社 勝島経営研究所ビジネスカツシマ  
代表取締役 勝島 朝子

## 所在地

本社：新潟県上越市栄町2丁目3番3号  
倉庫：新潟県上越市中央2-6（無人）

## 環境管理責任者（環境コミュニケーション窓口）

二宮 直人

## 会社の規模

設立：1990年7月14日  
資本金：1000万円  
社員数：17名  
延べ床面積：305.2㎡

## 事業内容

### アカウンティング事業

- 月次試算表、決算書類作成及び経営指導
- 経営分析、事業計画書作成
- カツシマ通信発刊
- 決算報告会
- 株式評価
- 標準保障額算定
- 相続シュミレーション

### コンサルティング事業

- HP作成、運営支援
- ITソリューション支援
- マーケティング支援
- 各種研修会 開催
- ISO9001、14001認証支援
- EA21認証支援
- 資産運用支援
- 不動産仲介

### アウトソーシング事業

- 総務代行業務
- 営業支援業務

認証・登録範囲：全組織・全活動

レポート対象期間：H23.7.1～H24.6.30

発行日：H24.8.

## 環境目標と実績

項目	2012年目標	2012年実績	達成状況
総エネルギー投入量	過去3年平均の1%削減	0.6% 削減	×
総物質投入量	過去4年平均の3%削減	24.6% 削減	○
水資源投入量	過去5年平均の5%削減	6.7% 削減	○
温室効果ガス排出量	過去2年平均の1%削減	1% 削減	○
廃棄物等総排出量	過去2年平均の5%向上	循環資源量 18% 減少	×
	過去2年平均の7%削減	最終処分量 4.8% 増加	×

※ 2012年度＝平成23年7月～平成24年6月

## 環境目標と実績-2

### 1. 総エネルギー投入量

項目	消費量・当期	消費量・過去3年平均	比較	単位
電 気	26,900	27,268	-1.3 %削減	kwh
	投入量・当期	投入量・過去3年平均	比較	単位
	264,427.00	268047.72	-1.4 %削減	MJ
項目	消費量・当期	消費量・過去3年平均	比較	単位
ガ ス	355	308	15.3 %増加	m <sup>3</sup>
	投入量・当期	投入量・過去3年平均	比較	単位
	14,590.5	12672.50	15.1 %増加	MJ
項目	消費量・当期	消費量・過去3年平均	比較	単位
ガソリン	5,269.20	5,433.25	-3.0 %削減	ℓ
	投入量・当期	投入量・2005	比較	単位
	182,314.32	187990.56	-3.0 %削減	MJ
項目	消費量・当期	消費量・過去3年平均	比較	単位
灯 油	231.0	111.7	106.9 %増加	ℓ
	投入量・当期	投入量・過去3年平均	比較	単位
	8,477.7	4098.17	106.9 %増加	MJ
合 計	投入量・当期	投入量・過去3年平均	比較	単位
	469,809.52	472808.95	-0.6 %削減	MJ

※総エネルギー投入量＝消費量×単位発熱量

単位発熱量：電 気 9.83 (MJ/kWh)

ガ ス 41.1 (MJ/Nm<sup>3</sup>)

ガソリン 34.6 (MJ/l)

灯油 36.7 (MJ/l)

## 環境目標と実績-3

### 2. 総物質投入量

資源の種類	当 期	比 較			単位
印刷・コピー用紙	706.8	-24.6	%	削減	Kg
	過去4年平均				
	937.8				

### 3. 水資源投入量

項目	消費量・当期	消費量・過去5年平均	比較	単位
上水道	252	270	-6.7 %削減	m <sup>3</sup>

### 4. 温室効果ガス排出量

項目	消費量・当期	消費量・過去2年平均	比較	単位
電 気	26,900	27,720	-3.0 %削減	kwh
	排出量・当期	排出量・過去2年平均	比較	単位
	10,168.20	10,477.97	-3.0 %削減	Kg-CO <sub>2</sub>
項目	消費量・当期	消費量・過去2年平均	比較	単位
ガ ス	355	315	12.9 %増加	m <sup>3</sup>
	排出量・当期	排出量・過去2年平均	比較	単位
	748.49	664.16	12.7 %増加	Kg-CO <sub>2</sub>
項目	消費量・当期	消費量・過去2年平均	比較	単位
ガ ソ リ ン	5,269.20	5,384.49	-2.1 %削減	ℓ
	排出量・当期	排出量・過去2年平均	比較	単位
	12,233.29	12,489.35	-2.1 %削減	Kg-CO <sub>2</sub>
項目	消費量・当期	消費量・過去2年平均	比較	単位
灯 油	231.00	131.5	75.7 %増加	ℓ
	排出量・当期	排出量・過去2年平均	比較	単位
	575.64	327.69	75.7 %増加	Kg-CO <sub>2</sub>

## 環境目標と実績-4

### 4. 温室効果ガス排出量

合 計	排出量・当期	排出量・過去2年平均	比較	単位
	23,725.62	23,959.17	-1.0 %削減	Kg-CO <sub>2</sub>

※温室効果ガス排出量＝消費量×排出係数 ①

or 消費量×排出係数×単位発熱量 ②

排出係数	電 気	0.378	①
	ガ ス	0.05	②
	ガソリン	0.07	②
	灯油	0.07	②

### 5. 廃棄物等総排出量

資源の種類	当 期	過去2年平均	差 引	単位
白上質紙	0.0	0.0	0.0	K g
新聞紙・雑誌類	0.0	261.2	(261.2)	K g
ダンボール	100.0	124.6	(24.6)	K g
セキユティ文書	450.0	290.0	160.0	K g
缶	5.6	7.9	(2.3)	K g
ビン	3.3	7.4	(4.1)	K g
ペットボトル	6.8	8.5	(1.7)	K g
紙パック	47.7	46.8	0.9	K g
プラスチック	56.2	70.5	(14.3)	K g
その他可燃ゴミ	146.9	134.4	12.5	K g
その他不燃ゴミ	0.0	5.8	(5.8)	K g
			比 較	増 減
循環資源量	669.6	816.9	-18.0	%減
最終処分量	146.9	140.2	4.8	%増
総排出量	816.5	957.1	-14.7	%減

※循環資源量 (リサイクルされるもの)

- ・新聞紙・ダンボール・缶・ビン・ペットボトル・紙パック
- ・プラスチック・雑誌・セキユティ文書

※最終処分量

- ・白上質紙・可燃ゴミ・不燃ゴミ

# 主要な環境活動計画の内容

---

## 環境目標を達成する為の取組

### ☆電気消費量の削減

- ・外出時、各自PCの電源ダウン・省エネ電球への切替
- ・クールビズ・ウォームビズ実施  
エアコン 夏場 28℃ 冬場 20℃ 設定  
社内ではノーネクタイ
- ・ブラインド、扇風機による室温、空調管理
- ・週1回程度「ノー残業デー」を設ける

### ☆ガス消費量の削減

- ・湯沸し時の火力調整に気をつける
- ・夏場の給湯器使用を控える

### ☆水道消費量の削減

- ・トイレタンクに水入りペットボトル投入し  
貯水量を削減する
- ・蛇口の水漏れ、出しっ放しに注意する

### ☆ガソリン消費量の削減

- ・燃費向上器具、ランナップを車輛の  
給油タンクへ投入 3台実施中
- ・その他燃費向上器具の調査、取付 リッツ 1台実施中
- ・安全運転によるエコドライブ実施
- ・方向、路線を考慮した車輛の計画的共同利用  
の実施
- ・車輛別の月次燃費を測定し、良燃費車の  
使用頻度を向上させる  
また、燃費不良車の廃車等を検討
- ・不良燃費車両の駐車場所変更

## 主要な環境活動計画の内容-2

### 環境目標を達成する為の取組

#### ☆廃棄物の削減・リサイクルの推進

- ・印刷時の裏紙使用、裏紙トレーの設置
- ・両面コピー、2up印刷の推進
- ・メール、サイボウズ（グループウェアソフト）の活用による紙使用量の削減
- ・月末のコピー用紙在庫管理による月次使用量の把握
- ・分別ゴミの推進
- ・日々のゴミ排出量を秤により測定し、排出状況を確認する
- ・使用済み封筒の再使用
- ・通い箱（エコバック）の推進
- ・機密文書はリサイクルセンターにて廃棄

#### ☆環境教育

- ・車両別燃費チェック
- ・E A 2 1 の運用、管理
- ・緊急事態への対応
- ・環境上の法規制 当社の責務について

#### ☆環境ボランティア活動への参加

- ・19年8月、20年4月に環境クリーン活動（地域清掃）実施

#### ☆中期環境目標（2013～2014年）

	平均値	目標
総エネルギー投入量	474295MJ	-1%
水資源投入量	255m <sup>3</sup>	-5%
温室効果ガス排出量	23881kg-CO2	-1%
総物質投入量	851kg	-3%
循環資源量	712kg	+1%
最終処分量	140kg	-1%

※ 総エネルギー投入量 : 過去3年平均  
 水資源投入量 : 過去3年平均  
 温室効果ガス : 過去3年平均  
 総物質投入量 : 過去3年平均  
 循環資源量 : 過去2年平均  
 最終処分量 : 過去2年平均  
 過去分の数値変動を考慮して設定。  
 目標は上記平均値に対する増減を示している。

## 環境活動の取組結果の評価

---

### ☆総エネルギー投入量・温室効果ガス排出量について

消費量については、電気が1.3%削減、ガスは15.3%増加、ガソリンは3.0%削減となった。

電気の消費量が特に多くなる夏季は、7月が若干多かったものの、8・9月は減らすことができた。冬季は、石油ストーブやガスストーブの使用が増えたことによりガス・灯油の消費量が増え、逆にエアコンの使用が抑えられた為電気の使用料の減少につながった。

総エネルギー投入量は、0.6%の削減、温室効果ガス排出量は、1.0%の削減となった。

来期は「ノー残業デー」をさらに徹底することで電気の使用量削減に努める。ガソリンの消費量をさらに抑える為に、各自でエコ運転の再確認を行う。

### ☆総物質投入量について

印刷・コピー用紙については、電子申告率の向上などによりさらに24.6%も削減することができた。来期も引き続き、裏紙の使用・2UP印刷を徹底し、よりいっそうの投入量の削減を目指す。

### ☆水資源投入量について

投入量は、6.7%の削減となった。来期も目標を達成できるように、今までの活動を継続する。

## 環境活動の取組結果の評価-2

---

### ☆廃棄物等総排出量について

循環資源量については、18.0%のリサイクル率の減少、最終処分量については、4.8%の増加となった。

リサイクル率の減少については、前年度同様にコピー用紙の投入量が減ったことによりセキュリティ文書が減ったためと考えられる。

総排出量は、14.7%削減となり全体のゴミの量は減らすことができた。

来期は、ごみの分別を徹底し、循環資源量の増加と最終処分量の減少を目指す。

# 代表者による見直しの結果報告

---

## 1 取組みの評価

当社の環境活動は事業における活動性の継続、作業環境の維持を優先している。

全体目標を達成できなかった原因は冷暖房熱量の増加である。この熱量は外気温に左右され、現在の建物設備の状況と当期の気象条件では、増加変動を容認せざるを得ない。

一方で他の項目は目標の水準を維持出来ている。このとは、エコアクション21の活動が、「日常の常識」として継続的に運用され、定着していると評価する。

## 2 見直しの必要性

### ①環境方針

今後も「活動性の優先」と「常識活動」を継続していく。

新規の資源投入を考えるとなく、現有資源の継続的活用によって、廃棄物等を極力抑える。

### ②環境目標

過年度との比較において現在の経営資源に大きな変動がない限り、当期の集計数値は容認できる差異の範囲と考え、目標は維持する。

### ③環境活動計画及び環境経営システム

新たに採用できる削減策が見つかった時点で速やかに策の実現と目標の変更設定を行う。

## 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

適用法規	該当する活動
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条 事業者の責務
家電リサイクル法	第6条 事業者及び消費者の責務
パソコンリサイクル法	第4条 事業者等の責務 第5条 消費者の責務
グリーン購入法	第5条 事業者及び国民の義務

### ☆違反、訴訟等について

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境関連法規への違反は無し。なお関係機関等からの指摘は無く、訴訟等についても同様に1件も無し。  
なお関係機関等からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

株式会社 勝島経営研究所ビジネスカツシマ

〒942-0072 新潟県上越市栄町2丁目3番3号

連絡先 TEL 025-545-5678

FAX 025-545-5677

URL : <http://www.0255.co.jp/katsushima/>

E-mail [hosaka@0255.co.jp](mailto:hosaka@0255.co.jp)

担当者 保坂 鮎子